

平成30年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 国文学科・助手

申請者氏名 高橋 優美穂

研究課題		足利義教を中心とした室町殿の文学活動の研究
報告概要	研究目的 および 研究概要	足利義教は、足利尊氏や足利義満に先例を求めながら、月次和歌会や連歌会などを催した他、最後の勅撰集となった『新続古今和歌集』の執奏も行った。本研究では義教が将軍であった永享年間における、月次和歌会や月次連歌会、『新続古今和歌集』の執奏などの文学活動の調査をとおして、室町将軍として文学活動を行うことの意義や目的を考察するものである。
	研究の結果	・『新玉津島社三十首和歌』の研究 平成29年度に、和歌文学会1月例会（2018年1月開催）にて、『新玉津島社三十首和歌』に関する研究発表を行った。その際の積み残し課題であった、作品の詳細な読解を進めた。その中で、義教の和歌表現を考えるためには、同時代歌人たちとの比較検討が必須であることが判明した。
	研究の考察・反省	平成29年度に引き続き、足利義教の全歌集の作成を継続して行っている。本年度は『新玉津島社三十首和歌』を始めとした、義教の現存する和歌について注釈を施すことを中心に研究を行った。その作業の中で義教の和歌表現の特徴を考えるためには、同時代歌人の和歌表現の特徴をつかむ必要が生じた。しかしながら、室町期の和歌作品に関する研究成果は多いものの、歌人たちが目指した表現世界を知るためには、作品そのものを読解し、室町期の和歌表現という大きな枠組みでの考察が必要である。平成30年度は、その作業に時間を割いたため、研究成果としてまとめることができなかった。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	なし	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		上記のとおり、作品読解に時間を費やしたため、本年度は研究成果を発表することができなかった。